TACHIUO TENYA MS

三石忍プロデュース タチウオテンヤMS

◉すでにテンヤタチウオ専用竿の定番となりつつある三石忍プロデュース、がまかつの「タチウオテンヤMS」。中弾性素材と高弾性素材をミックスした操作性と感度に優れたブランクス、これに高強度、高感度のスーパートップを搭載したテンヤタチウオ最強モデル。糸が絡みにくいスパイラルガイド設定。アイテムは昨年追加されたL、Hを加え、全5機種。今や全国的な釣法となっているテンヤタチウオの釣り場別、様ざまな釣法のすべてに対応可能となった。

▲▼三石さんが最もこだわったのが穂先と元、そしてバランス。穂先は糸絡みを防止し、軽量化にもつながるスパイラルガイド設定

▲穂先はがまかつが独自に開発した超高強度・超高感度ソリッドトップ、スーパートップを採用。繊細かつ強度に優れ、当社比で2倍の巻き込み強度を持つ

▶LからHまで5種のラインナップ。瀬戸内海の浅場から東京湾や大阪湾の即掛けまで幅広く対応する

◀スーパートップの穂先は各モデル専用設計。細さ、張り、ガイドピッチなどが異なる

▲中空部を設けることで軽量化と感度性能向上を図ったリザウンドグリップを搭載、手感度も優れている

▲リアグリップを長く設定することでバランスの最適化を図っている。数値の軽さだけでなく実釣での軽さにもこだわった仕様

★「この5本で全国のタチウオ釣り場、どんな状況にも対応できます」と三石さん

タイプ	標準全長(m)	希望本体価格(円)	標準自重(g)	仕舞寸法(cm)	使用材料(%)	モーメント	継数(本)	先径(mm)	錘負荷(号)
L	1.8	38,500	120	135.0	C99.9／G0.1	5.3	2	0.8	20～50
ML	1.8	38,500	120	135.0	C99.9／G0.1	5.3	2	0.8	20～50
M	1.8	38,500	123	135.0	C99.9／G0.1	5.6	2	0.9	20～50
MH	1.75	38,500	123	130.0	C99.9／G0.1	5.5	2	0.9	30～60
H	1.73	38,500	128	128.0	C99.9／G0.1	5.7	2	1.0	30～60

※C＝カーボンファイバー、G＝グラスファイバー。※モーメント＝標準自重(kg)×竿尻から重心までの長さ(cm)。※上記の釣竿にはエポキシ樹脂を使用

▲手にする魚は少なくてもヒントは多い。それがタチウオ釣りの面白いところだけに、感度のよい竿が必需品

探るべくストップ・アンド・ゴー、小刻みに3回シャクってポーズ、スロー巻き、そしてバイブレーションと、テンヤタチウオで使われるほとんどの誘いを試していく。

魚探に映る反応は濃いものの追わないことから、タナが極めて狭いと判断した三石さんは前方にキャスト。水深分、道糸を出したところで止め、横へ引くイメージで一定のレンジを誘う釣り方で1本目を掛けた。

続いてはタチウオが反応した水深をピンポイントでバイブレーションで誘い2本目。やや深みへ移動してからは短時間であったものの底潮と上潮の境、いわば潮境を見つけ3本目、そして終わり間際に1本を追加して満足の沖揚がりとした。

1本ずつ個性があるかのようなタチウオと対峙し、考え、悩み、工夫して釣っていくのが本来のタチウオ釣りの面白さと言う三石忍さん。

同じパターンで何十本も釣るよりも、激渋の日にあらゆる誘いを試して1本を釣ることこそが、上達のカギになると付け加える。

その誘い、アタリ、水深に対応するべく、こだわり抜いて作られた竿がタチウオテンヤMS。厳寒期だからこそ、手にしてほしい専用竿である。

▶東京湾でまず1本選ぶとしたら、MH175がおすすめ

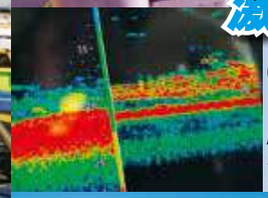
◀胴の間なら前方に、四隅なら斜めに投げ入れることでオマツリを防ぎ、同時に斜め引きもできる

◀MLやMでもバイブレーションは可能。むしろ弾かずに掛けやすい場面も多い

◉Presented by Gamakatsu　問い合わせ＝がまかつ☎0800・222・5895

★アタリは止めてから出るのか、動きながら出るのか。手がかりを探るためにも穂先の感度は重要だ

タチウオ上達のカギは激渋時の攻略にあり！



▶エサは真っすぐでいねいに。これは釣り方より大切かも

◀海底付近に濃密な反応があるのにまったく口を使わない。これが激渋モード

★周囲の釣れ具合は黒系のテンヤ、定点バイブレーションが有効。試してみる

★激渋だから面白いのがタチウオ。しかも冬は大型も釣れる

三石忍 タチウオテンヤMSで冬の東京湾テンヤタチウオ攻略

Gamakatsu

◉東京湾のタチウオは周年の釣り物として確立しているものの、時期によっては食い渋ることもある。昨年の12月はまさにそんなときだった。釣行した三石忍さんは食い渋り時こそ上達のカギがあると、勇躍冬の東京湾に繰り出した。

★穂先は敏感でも元はしっかり。タチウオテンヤMSに共通するコンセプトを象徴するカーブ（写真はMH175）

東京湾のタチウオは真冬のシーズン、一時的に激渋の日がある。そんなときは流行の釣り方でも歯が立たないのが当たり前。1投ごと仕掛けに工夫を凝らし、周りを観察し、タチウオの活性を推測し、誘いやタナにも工夫を繰り返すことで1本にたどり着く。

三石忍さんがテンヤタチウオに釣行した12月の東京湾はまさにそんな一日。たとえ渋い状況にあっても欠かさずタチウオに出船する三浦半島新安浦港こうゆう丸の荻野裕大船長は、横須賀市街を眼前に見る浅場から攻めていく。

三石さんが愛用するのは自身がプロデュースしたタチウオテンヤMS。このたびLとHを加え5種のラインナップとなった中から、東京湾で最も汎用性が高いMHを手にスタート。活性を

取材協力◉三浦半島新安浦港・こうゆう丸 ☎090・4063・0887